



やはたっ子

全国学力テストをふり返って号
令和6年10月4日
八幡小学校

4月18日（水）に6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」が実施され、その調査結果が8月下旬に公表されました。その結果を生かし今後の改善を図っていくために、学校としての主な課題とその改善などを合わせて報告させていただきます。

【学力状況調査の結果】

★国語★

平均正答率は、全国や県より少し上回る結果でした。

情報の扱い方に関する事項、図などによる語句と語句との関係の表し方を問う項目についての正答率は全国や県平均と比べるとやや高い結果でした。しかし、文章から読み取ったことを要約することや既習漢字から文章に合う漢字を正しく使う項目の正答率は低く、特に、条件に合うように文章を考える問題は、本校児童は苦手意識が高いようです。

今回の学力調査から、文章の内容を読み取る読解力や自分の考えが伝わるような書き方を工夫して表現する表現力に課題があることがわかりました。

★算数★

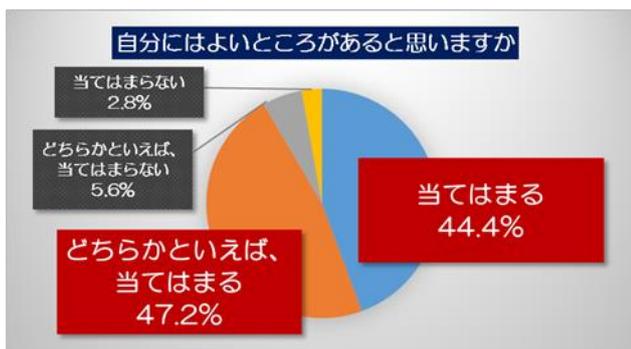
平均正答率は、全国や県より少し上回る結果でした。

学習指導要領の各領域（数と計算・図形・変化と関係・データの活用）において、バランス良く理解できている反面、「変化と関係」領域においては、資料から読み取ったことの原因を文章表現することに苦手意識を感じている児童が多かったようです。県や全国でも同様の傾向が見られ、「変化と関係」領域問題の正答率が低く、苦戦した様子がうかがえました。算数科の問題の特徴として、複数学年にわたる学習内容が混ざっています。そのため、既習の知識を活用して解き進んでいくことがポイントとなりました。

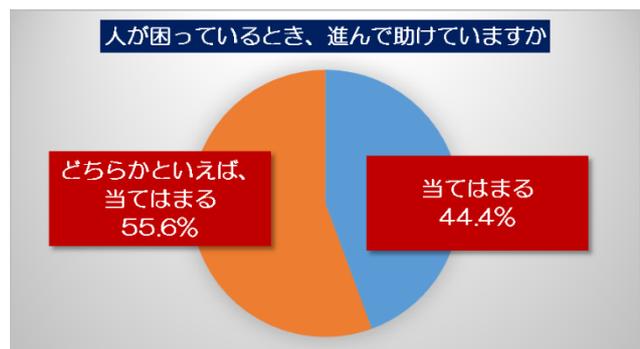
今回の学力調査から、既習内容の繰り返し学習による学力の定着を図る必要があることがわかりました。

【児童質問紙調査の結果】

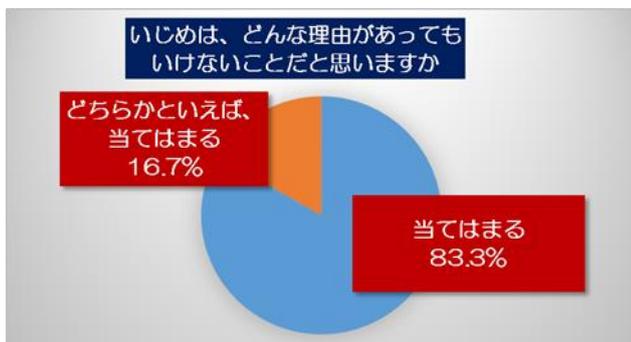
《良好》 やはたっ子のポイントが高い項目



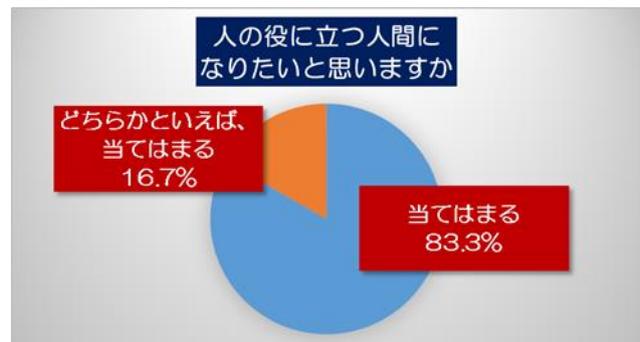
↑自己肯定感が高い児童が多いです。



↑人を思いやる心をもつ児童が多いです。



↑いじめへの人権意識がとても高いです。



↑自己有用感への意識がとても高いです。

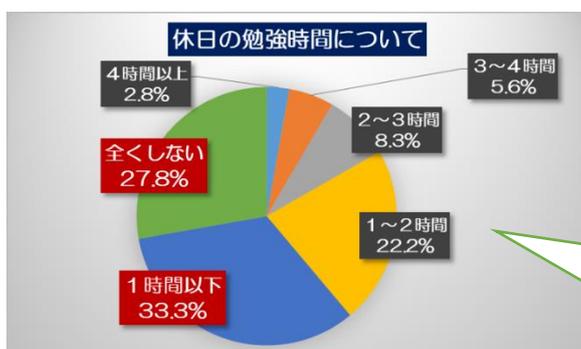
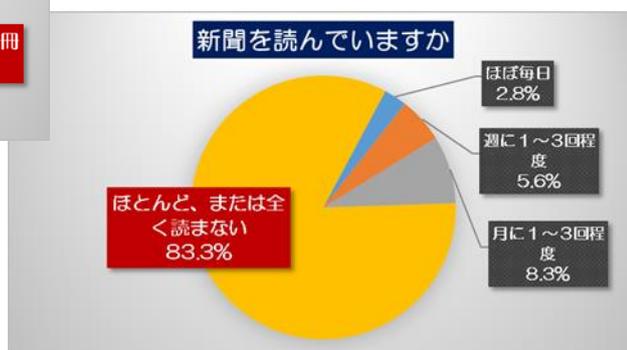
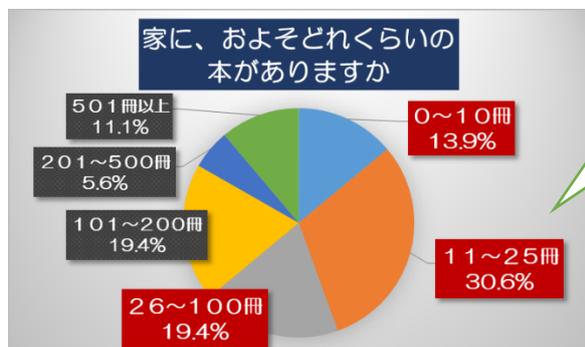
他には・・・

- ・朝食を毎日食べていますか・・・97.3%
- ・学校に行くのは楽しいと思いますか・・・91.7%
- ・交友関係に満足していますか・・・97.2%

《課題》 やはたっ子のポイントが低い項目

活字に触れる機会を増やす必要があります

今回の調査では、家庭にある本の冊数、新聞を読んでいるかについて問われました。それぞれグラフの通りとなっており、活字に触れる機会が少なく（活字離れ）なっているようです。



休日の学習習慣をつける必要があります

休日に2時間以上学習している児童は、全体の16.7%でした。これは、全国・県平均と比較すると下回る結果となっています。また、全くしないと答えた児童は27.8%、1時間未満と答えた児童は33.3%で、合わせると61.1%となっていました。

【今後の改善策】

国語科では、今後の学習活動の中で引き続き、自分の考えをわかりやすく記述して説明する機会を多くとっていきたいと思います。また、算数科では、既習内容をもとに、思考して問題解決にあたるのが課題であることから、加古川市では平成30年度より、東京大学大学院教育学研究科の藤村宣之教授が提唱している、児童一人一人が自分で答えを形成するための支援ができる学習法である「協同的探究学習」を進めています。今後も本市が取り組んでいる協同的探究学習を推進し「できる学力」とともに「わかる学力」の伸長に注力していきます。

質問紙では、良好項目として、友だちに対する思いやり、いじめに対する正しい認識をもち、人権意識の基礎が培われている児童が多いことが分かりました。今後も、児童に寄り添いながら、心の通った教育活動を進めていけるよう全職員が一丸となって取り組んでいきます。

一方、休日の学習時間や活字に触れる機会について課題がみられました。今後も継続して家庭学習や読書等の大切さを伝え、計画的に学習や読書に取り組む習慣を身につけさせたいと思います。また、家庭学習や読書の習慣を身につけさせるためには、ご家庭のご協力も大切になりますので、積極的な声掛けや励ましなどを引き続きよろしくお願いいたします。

さらに、本校の教育目標である『たくましく心豊かですすんで学びあう八幡っ子の育成』のためには、保護者の皆様、地域の方々の力が必要不可欠です。今後も八幡小学校の教育にご理解ご協力よろしくお願いいたします。

二 高山さんは、次の【高山さんの文章】の
 考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、
 内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましよう。
 に、【高山さんの取材メモ】をもとにして
 に入る

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイなげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について
 6年生がくふうしていること
 ○遊びたいことを下級生に聞く
 ○ルールをくふうする
 ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる
 下級生に聞いたこと
 ○1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
 ○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
 ○4年生 みんなが楽しそうでうれしかった

- ○ ○ 〈条件〉
- 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
 - 【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

この問題の正答条件として、

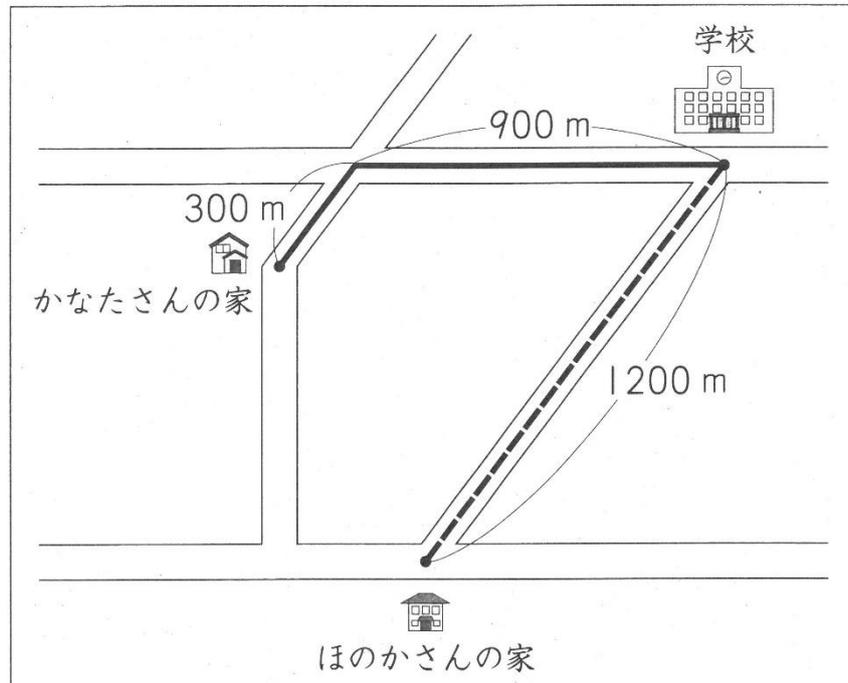
- ① 取材メモの内容（事実）を書いていること。
- ② その事実と関連づけて、「たてわり遊び」のよさについて、自分の考えや意見を書いていること。
- ③ 60字以上100字以内で書いていること。

の3つです。①と③を満たしていたが、②の「自分の考えや意見」が書けていないことが多く見られました。このことから、「事実」をもとにして、どのような「考え」を伝えたいのかについて確認することができるよう、児童同士で書いた文章を読み合うなど、「伝えたいこと」を交流しながら確かめ合う場面を設定するなど、自分の考えをまとめて伝え合う取組を進めていきたいと思います。

算数 問題4-(3)

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。

家から学校までの道のり



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の **1** と **2** から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる2人の速さについて、どちらが速いかを判断し、その理由を書く問題です。選択式の正答は、1の「かなたさん」です。記述式の正答例は、「かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900+300=1200$ で、 1200m です。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは、 1200m で同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんのほうが速いです。」となります。このことから、協同探究場面において、例えば「同じ距離なのに、どうして一方だけが早く着くのか」と問いかけ、多様な考えの関連づけを行うことで、道のりと速さ、時間との関係性について理解が深められるような取組を今後も進めていきます。